

[建設] 課 経 営 計 画 書 (総 括 表)

■事務事業の総括

No.	事務事業名	様式 区分	H28 年度計画額 (単位: 千円)		H28 年度必要人工	
			計画額	内特定財源	職 員	臨時職員
1	土地改良事業	B	43,216	11,934	0.4	0
2	道路維持管理事業	A	142,163	27,555	1.5	3.2
3	道路整備事業	B	104,068	0	1.0	0.2
4	橋りょう維持管理事業	B	26,604	11,055	0.4	0.2
5	橋りょう整備事業	A	16,805	0	0.2	0
6	河川排水路維持管理事業	B	27,758	2,143	1.3	2.4
7	河川排水路整備事業	B	0	0	0.0	0.0
8	調整池維持管理事業	B	3,247	860	0.2	0
合 計			345,367	76,670	5.0	6.0

■特記事項

--

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課		No.	01
事業名	土地改良事業			
総合計画の 体系	大分類	2	未来へと引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する	
	小分類	(2)	環境と共存した産業の発展	
目的	農業経営の合理化を図るため、用排水路の計画的な維持管理を行う。			
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化の進んだ土地改良施設の更新を行い、農業労力の軽減、農業用車両の安全確保及び、用排水路の通水不良の改善等、農業経営の合理化を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・道路、河川及び橋りょう工事を含め合理的に整備ができるように計画的な改修及び修繕。 ・用排水路改修の調査検討 	
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が進み、要修繕箇所が増大している。営農に支障をきたす箇所においては緊急的に修繕をする必要があるが、広域的段階的に改修を進めていくには、財政的にも将来の土地利用状況を想定しても困難状況である。 ・県営土地改良事業（合瀬川地区）により荒井堰掛りのパイプラインが完成しているが、開水路からの切り替えが進んでいない。 			
平成 28 年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・県費補助を活用し整備効果が上がるよう、計画的かつ合理的に整備していく。 ・平成 24 年度に作成した台帳を利用し、用排水施設の修繕計画の策定したうえ、再整備に向けて事業種別を選定し具体化するため、調査業務を委託する。 ・区要望に対する早期回答 ・水管理の効率化と杣守管理の安全性の向上を図るため、荒井堰かかりの合瀬川パイプラインについて、通常配水へ移行する。 			

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4 ～ 7	用排水路保守点検委託業務発注 用水管理
9	単独土地改良事業の認可申請 認可（予定）
11 ～ 3	認可を受けた施設の改修工事の発注 完了

□3年間の目標

目標	老朽化した用排水路について、平成 24 年度に作成の用排水路施設台帳を基に、平成 28 年度は引き続き維持管理（改修・修繕・補修）計画を策定する。平成 29 年度は、県営事業（国庫補助）採択に向けて事業計画採択申請を行う、また平成 30 年度以降は、調査設計及び工事の事業実施を行う。（達成年次 平成 37 年目標）					
項目（単位）	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 計画	H29 目標	H30 目標
用排水路施設整備計画				策定	国費採択申請	事業実施

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H29 年度	施設整備計画の県営事業採択に向けての調査及び国費採択申請
H30 年度	施設整備計画に沿った事業実施（県営事業及び町単独事業）

■事業コスト

		単位	H26 年度決算額	H27 年度当初予算額	H28 年度計画額
事業費		千円	32,054	37,293	43,216
(内特定財源)		千円	8,910	7,795	11,934
人工	職員	人工	0.50	0.50	0.40
	臨時職員	人工	0.00	0.00	0.00
	計	人工	0.50	0.50	0.40

■平成 28 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
単独土地改良事業費補助金	11,933	
大瀬川堰維持管理負担金	1	
合計	11,934	

■平成 28 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
13	農業生産基盤等整備計画調査委託料	7,658	7,658	土地改良施設の更新改良事業に向けた調査費用(新規)
19	県営土地改良事業負担金	3,396	2,694	昭和用水路及び木津用水岩倉用水路管渠の耐震化のための調査費用(新規)

■特記事項

維持管理費の増加を抑制し、施設を長持ちさせるため、予防保全(計画的にメンテナンスを行うこと)を目指し、補助金等を効果的に活用し施設の延命を図る。

昭和 40 年代に整備された用排水施設老朽化が進行しているため維持管理計画を策定する。

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・施設の老朽化など著しい通水不良と判断される区間を選定し、土地改良施設の整備を実施した。
 - ・単独土地改良事業（県補助）として、用水路の改修をL=260mを施工。
 - ・取水口・排水口等の農業施設の老朽化に伴う不良個所の維持工事を施工した。
- ・用排水施設の修繕計画の策定にあたっては、県営ほ場整備事業として早期に効果があげられるよう計画の策定に努めた。
- ・未利用区間のパイプラインを早期に運用できるように、愛知県及び木津用水土地改良区と調整を行い試験的に通年通水を実施した。

■ 評価

- ・施設の更新を行うことで、農作業労力の軽減と農業用車両の安全確保及び用排水路の通水不良が改善され、農業経営の合理化を図ることができた。
- ・用排水路修繕計画の策定については、愛知県と調整を行い平成30年度に県営事業（新規地区）として採択するための基礎調査が完了した。
- ・平成28年度に試験通水を行った結果、取水量及び操作弁の不具合を確認したことで、県において平成29年度に対応できるよう要望することができた。

事業別経営計画書【A】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	02
事業名	道路維持管理事業		
総合計画の 体系	大分類	2	未来へ引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する
	小分類	(3)	自然と共生した地域社会づくり・良好な生活環境の確保
目的	安全で安心した生活環境を維持するため、道路施設の長寿命化を図る。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・舗装、道路維持修繕等工事 ・道路樹木の維持管理 ・道路台帳更新業務 		<ul style="list-style-type: none"> ・住民団体による道路樹木の維持管理
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・道路、道路付属施設などの公共土木施設を建設し、管理してきたが、多くの施設が近い将来、更新(つくり直す)しなければならない時期が到来している。 平成 26 年度に道路付属物の点検として、大型看板や交差点照明について実施した。その結果としては、早急な対応を必要とするものは無かった。 道路修繕については、舗装の修繕を計画的に実施しているものの、予定している交付金(国庫補助)が要望額の60%程度と少なく、計画通りに進んでいないのが現状である。今後、財源の確保を行い計画的な修繕を行う必要がある。 ・過去における工事履歴等が台帳等に整理されているものの、舗装工事施工後の掘り返し規制に対する指導や占用申請工事等の窓口における対応時に活用されてこなかったために、窓口対応に矛盾が生じている。 		
平成 28 年度 の目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の平準化を考えた長期的な主要町道舗装修繕計画に基づき、修繕の実施(交付金事業)。また、交付金事業で対応できない路線について、効果的な工法を採用することにより、経費の削減を図る。 ・区要望に対する早期回答 ・舗装工事について、占用工事の舗装復旧と調整を行い生活道路の快適性を向上する。 ・窓口対応時の記録を残すことにより、窓口指導等の公平性を図る。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	道路樹木維持管理業務の年間契約 平成 28 年度維持管理工事実施計画策定
5~3	道路台帳更新業務 交付金事業及び町単独事業で主要町道（役場南線ほか）の舗装修繕を実施。
随時	舗装、道路維持修繕等工事

□3 年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要町道舗装修繕計画に基づく修繕実施 ・ 通学路の安全対策 					
項目（単位）	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 計画	H29 目標	H30 目標
主要町道舗装修繕計画	計画策定	計画策定	計画実施	計画実施	計画実施	計画実施
通学路の安全対策	計画実施	計画実施	計画実施	計画実施	計画実施	計画実施

□2 年後、3 年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H29 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要町道舗装修繕計画に基づく工事の実施（交付金） ・ 通学路の安全対策（単独）
H30 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要町道舗装修繕計画に基づく工事の実施（交付金） ・ 通学路の安全対策（単独）

■事業コスト

		単位	H26 年度決算額	H27 年度当初予算額	H28 年度計画額
事業費		千円	135,330	131,792	142,163
(内特定財源)		千円	32,397	43,200	27,555
人工	職員	人工	1.40	1.00	1.50
	臨時職員	人工	2.00	3.00	3.20
	計	人工	3.40	4.00	4.70

■平成 28 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
道水路占用料	15,900	道路維持管理事業
社会新整備総合交付金(防災・安全)	16,500	道路維持管理事業
合計	32,400	

■平成 28 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■ 特記事項

舗装修繕計画を策定することにより、主要町道の長寿命化を図るとともに工事費が補助対象となる。
また、道路ストック総点検として、各自治体は、管理する全ての橋梁の他、トンネル、舗装、道路付属物（標識、照明施設等）、道路法面等の点検を行うことが義務付けられているが、当町ではトンネル及び法面は該当がないため、道路維持管理事業の中では、道路付属構造物の点検を行うこととしている。橋梁以外については定期点検の法制度化までされていない。

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・ 主要町道舗装修繕計画に基づき、舗装工事を施工した。
- ・ 社会資本整備交付金事業（国補助）を含め、舗装修繕工事 L = 8, 674 mを施工（町道役場南線ほか2路線）。
- ・ 町単独事業として、カーブミラーやガードレール等の道路施設の修繕工事を施工した。
- ・ 緊急修繕対応となる随時区要望（舗装部分修繕。道路反射鏡の修繕や設置等）については、現場確認のうえ速やかに対応した。
- ・ 舗装工事における占用工事との調整については、掘り返し規制等の条件と照らし合わせながら行った。
- ・ 道路樹木及び河川敷併用道路部分の維持管理について、地元9団体と低木管理や除草作業の委託契約を締結した。
- ・ 窓口対応時の記録を残すことに努めた。

■ 評価

- ・ 舗装修繕計画に基づき工事を行ったことにより、計画的な修繕を行うことができ予算の平準化が図られた。また、道路の修繕工事により歩行者や通行車両の安全の確保を図ることができた。
- ・ 舗装工事を従来とは違う施工方法で実施したことで、経費の削減が図れた。
- ・ 窓口対応の記録をデータベース化したことにより、苦情箇所の把握や対応をスムーズに行うことができた。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	03
事業名	道路整備事業		
総合計画の 体系	大分類	2	未来へ引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する
	小分類	(3)	自然と共生した地域社会づくり・良好な生活環境の確保
目的	道路の改良により、安全で安心な生活環境を確保する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・道路計画の策定 ・道路用地の購入 ・道路拡幅、改良工事の設計 ・道路拡幅、改良工事の施工 		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた資金の中で、交通上の安全や良好な生活環境を確保するために歩道や側溝の整備、用地の取得を行わなければならない。 ・平成 10 年度に将来の土地利用や交通需要などとの整合を図るため、町内の道路に対して整備計画を策定がされてきたが、現在に至るまでに道路規格の変更や土地利用計画の見直しなど道路計画においても見直しが必要となってきた。 ・国道 4 1 号の 6 車線化に伴う、外坪交差点協議において交通規制等の地元同意と公安協議を進めているが、公安委員会での協議が長引いている。その結果、取り付け道路(町道内津々線)の進捗が遅れている。 ・町道布袋小牧線用地について、交渉を進めているが影響範囲(用地、物件補償範囲)が広く進捗が遅れている。 ・農道等の法面(土羽)を擁壁タイプとすることで、道路幅員の確保と維持管理費の軽減に向けて整備個所の選定を行い、平成 27 年度から工事に着手してきた。 		
平成 28 年度 の目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・町道内津々線整備に伴う周辺道路計画の見直しを行い、土地利用計画や将来の交通需要との整合を図る。 ・区要望との整合性を図りながら、中期的な歩道整備等道路整備計画を策定するとともに、整備順位と予算確保を行い、安全な生活環境の整備を図る。 ・国道 41 号線と町道内津々線の平面交差点化実現に向け、早期に公安委員会協議を終了させ、国道工事に合わせた工事発注の準備を行うため、町道内津々線の詳細設計を実施する。 ・町道布袋小牧線が早期に改良できるように、用地測量や支障物件調査を実施し、地元関係者と協議し調整を行う。また、協議が整いしだい用地買収を行い、早期完了に努める。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
随時	<ul style="list-style-type: none"> ・道路用地の購入 ・道路改良工事の設計、施工(用地、用水時期等条件の整ったものから) 町道中小口8号線改良工事（用地取得） 町道下小口82号線改良工事（用地取得後） 町道内津々線改良工事（用地交渉及び周辺道路の整備計画見直し） 町道布袋小牧線改良工事（用地交渉）

□3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・町道（農道）法面擁壁化による拡幅 ・道路網整備計画の見直しによる路線整備 					
項目（単位）	H25実績	H26実績	H27実績	H28計画	H29目標	H30目標
町道拡幅（擁壁工事）		計画策定	計画実施	計画実施	計画実施	計画実施
町道整備計画（道路網）				計画策定	計画実施	計画実施

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H29年度	<ul style="list-style-type: none"> ・町道（農道）法面擁壁化による拡幅（罹災時の避難道路確保） ・町道整備計画（道路網）の整備路線及び順位の検討
H30年度	<ul style="list-style-type: none"> ・町道（農道）法面擁壁化による拡幅（罹災時の避難道路確保） ・町道整備（道路網）の事業着手

■事業コスト

		単位	H26 年度決算額	H27 年度当初予算額	H28 年度計画額
事業費		千円	63,314	85,095	104,068
(内特定財源)		千円	0	0	0
人工	職員	人工	0.60	0.80	1.00
	臨時職員	人工	0.00	0.40	0.20
	計	人工	0.60	1.20	1.20

■平成 28 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合計		

■平成 28 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
13	町道内津々線他整備計画基礎調査委託料	4,968	4,968	町道内津々線整備に伴う周辺道路整備計画の見直しのための調査費用

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・道路改良工事として、町道郷浦1号線、町道役場柏森線、町道下小口82号線ほか5路線、L=990m施工した。
- ・国道41号と町道内津々線の平面交差点化へ向けて、愛知県公安委員会との協議を行った。
- ・町道布袋小牧線拡幅工事に向け、路線測量、用地測量及び詳細設計を行った。また、支障物件の調査を実施した。
- ・法面改良工事については、道路敷地の有効利用と通学路等での安全確保を図れるよう1路線の改良工事を施工した。

■ 評価

- ・道路改良工事により交通安全対策が図られ、利用者の利便性と安全性が向上した。また、新設道路により、町道へ接道ができるようになったことから、土地の有効利用が図られ資産価値が向上した。
- ・国道41号6車線化工事に伴う町道内津々線との交差点協議については、協議を完了し事業着手できることとなった。
- ・町道布袋小牧線拡幅については、平成29年度に工事着手できることとなった。
- ・道路法面に改良を加えることで、歩道の設置と路側帯の確保することができ、歩行者等の安全確保を図ることができた。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	04
事業名	橋りょう維持管理事業		
総合計画の 体系	大分類	2	未来へ引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する
	小分類	(3)	自然と共生した地域社会づくり・良好な生活環境の確保
目的	安全で安心した生活環境を維持するため、橋りょうの長寿命化を図る。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 橋りょうの長寿命化修繕計画の策定 ・ 橋りょうの修繕工事の設計 ・ 橋りょうの修繕工事の施工 ・ 橋りょうの維持管理 		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の管理橋りょうの多くは高度経済成長期に建設され、老朽化が進行している。道路法の改正により、これらの橋りょうについて適切な維持管理のもと長寿命化を図ることが義務付けられたことから、H22.23年度に橋長15m以上の橋りょう及び1・2級町道及び緊急輸送道路にかかる橋長2m以上の橋について全体86橋のうち37橋の現状把握と橋りょう点検を行い、H24年度には、この点検結果を用い、橋りょう長寿命化修繕計画策定を実施している。今後、残りの49橋の調査と計画策定が必要となっている。 ・ 10年間の修繕（等）計画では予算の平準化した金額を計上しているが、このほか、架け替え相当判定の橋があること、また、点検は5年ごとに行うこととなっており、予算の確保について留意する必要がある。 ・ 修繕工事については、H24年度に作成した修繕計画に基づき、平成26年度から交付金事業として修繕（H26 4橋、H27 2橋）を開始したが、橋りょうの老朽化が想定以上に進んでいるものもあり、実施事業費が当初の予定よりも嵩んできている。 		
平成28年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 点検が済んでいない49橋について、H30年度以降に実施できるよう計画の策定を行う。 ・ 平成23年度点検橋りょう（20橋）の2回目の点検実施することになっており、結果を受けて計画の見直しを行う。 ・ 昨年度に引き続き、点検済橋りょう（大栄橋、富士見橋、甚佐橋、長蔵橋）の修繕工事を施工する。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
6 ~12	H28 前回（H23）点検橋りょうの5年目定期点検の実施
10 ~3	H28 修繕対象橋りょうの修繕工事

□3年間の目標

目標							
	項目（単位）	H25実績	H26実績	H27実績	H28計画	H29目標	H30目標
	橋りょう長寿命化修繕計画			点検・見直し	点検・見直し	点検	点検
	橋りょう修繕		実施	実施	実施	実施	実施

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・長寿命化修繕計画に基づき修繕（交付金事業） ・長寿命化修繕計画に基づきH23点検橋りょうの2回目点検（交付金事業）
H29年度	<ul style="list-style-type: none"> ・長寿命化修繕計画に基づき修繕（交付金事業） ・長寿命化修繕計画に基づき橋りょう点検（点検を行っていない橋りょうを対象）

■事業コスト

		単位	H26 年度決算額	H27 年度当初予算額	H28 年度計画額
事業費		千円	29,940	58,664	26,604
(内特定財源)		千円	5,940	23,045	11,055
人工	職員	人工	0.25	0.30	0.40
	臨時職員	人工	0.00	0.20	0.20
	計	人工	0.25	0.50	0.60

■平成 28 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
橋りょう修繕事業費補助金	11,055	橋りょう維持管理事業
合計	11,055	

■平成 28 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

平成 26 年度以降は、長寿命化修繕計画に基づく修繕及び 5 年ごとの点検業務を行うことになるため、毎年 3000 万円程度の橋りょう維持管理事業費が必要になる。これに加え、河北橋について修繕で進めるのか架け替えを検討するのか、及び、雉子野橋の架け替えを検討しなければならない(費用以外に西武線の交通確保あるいは通行止め等の検討も必要。)

これ以外に、道路ストック総点検により各自治体は管理橋りょう全てについても、同様の点検を行うことが義務付けられている。平成 26 当初予算では点検費用が確保できていないが、国、県からは点検状況調査と指導が行われる見込みであり、実施に向け計画を立てなければならない。

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・ 交付金事業として、五条橋及び万願寺橋の修繕を行った。
修繕の内容として
 - ・ 富士見橋 . . . 伸縮装置取替工、舗装工・防水工
 - ・ 甚佐橋 . . . 舗装工・防水工及び塗装塗替工
 - ・ 長蔵橋（歩道橋） . . . 舗装工・防水工
- ・ 橋りょう点検等業務として、平成23年度点検を実施した20橋の2回目（5年周期点検）の点検業務を委託した。

■ 評価

- ・ 橋りょう修繕工事により
 - ・ 舗装工・防水工の施工によって、雨水浸透による主桁の劣化防止
 - ・ 塗装塗替工による防護柵、排水管等の腐食の防止等の対策を行い、橋りょうの長寿命化を図ることができた。
- ・ 橋りょう点検等業務による点検を実施したことで、橋りょうの安全性の確認と今後の対策を図ることができた。

事業別経営計画書【A】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課		No. 05
事業名	橋りょう整備事業		
総合計画の 体系	大分類	2	未来へ引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する
	小分類	(3)	自然と共生した地域社会づくり・良好な生活環境の確保
目的	安全で安心した生活環境を維持するため、橋りょうの架け替え、拡幅、歩道設置等を図る。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・橋りょうの整備工事の設計 ・橋りょうの整備工事の施工 		
現在における 経過又は課題	<p>・平成 24 年度に作成した橋りょう長寿命化修繕計画において、架け替え相当とした橋りょうが 1 橋（雉子野橋）ある。雉子野橋は、橋りょう点検において、架け替え相当と診断されていることから、早期に対応するため、平成 27 年度に仮設道路の必要性を含め周辺企業との調整を行った。このほかにも、修繕対応としている橋のうち、架け替えが相当と判断すべき橋（竹橋歩道橋）も 1 橋ある。これらの橋の架け替え計画について、事業費算定とともに、周辺交通への影響も精査する必要がある。</p> <p>また、平成 26 に補修設計した河北橋についても修繕費算出のために追加設計を要するため、架け替えを含めた検討をしなければならない。さらに、町道野合線の渋滞緩和と合わせて合瀬川に架かる柿野橋の交通需要に合わせた架け替えが必要となっている。</p>		
平成 28 年度 の目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・雉子野橋について、平成 28 年度に詳細設計を行い、河川管理者及び公安委員会との協議を進める。また、協議結果により平成 29 年度に工事が施工できるように準備を行う。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	雉子野橋 詳細設計 発注 河川管理者協議、公安委員会協議
5	
～	周辺企業対策・占用者協議
10	
11	
～	

□3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・橋りょう長寿命化修繕計画に基づき橋梁整備を実施する。 ・ 					
項目（単位）	H25実績	H26実績	H27実績	H28計画	H29目標	H30目標
橋りょう長寿命化修繕計画に基づく橋梁整備				設計 雉子野橋	工事 雉子野橋	設計 柿野橋

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H29年度	・雉子野橋の工事に着手する。また、計画的に橋りょうの整備を行うため、柿野橋の調査を行う。
H30年度	・柿野橋の調査及び設計に着手し、平成31年度に架け替え工事ができるように準備する。

■事業コスト

		単位	H26 年度決算額	H27 年度当初予算額	H28 年度計画額
事業費		千円	0	0	16,805
(内特定財源)		千円	0	0	0
人工	職員	人工	0.00	0.20	0.20
	臨時職員	人工	0.00	0.00	0.00
	計	人工	0.00	0.20	0.20

■平成 28 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合計		

■平成 28 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
13	雉子野橋架替工事詳細設計	16,805	16,805	雉子野橋の架け替え工事のための設計委託料

■特記事項

橋りょうの架け替え工事については、周辺事業所等の交通確保についての検討が必要であり、事前に公安委員会を含めた協議も必要となる。

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・平成29年度に工事着手できるよう測量及び詳細設計を実施した。
- ・工事期間を短縮できるよう周辺企業との調整を図った。

■ 評価

- ・工事期間を短縮するため周辺企業と調整した結果、通行止めによる施工とすることができた。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	06
事業名	河川排水路維持管理事業		
総合計画の 体系	大分類	2	未来へ引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する
	小分類	(3)	自然と共生した地域社会づくり・良好な生活環境の確保
目的	安全で安心した生活環境を維持するため、河川排水路施設の維持管理を行うとともに長寿命化を図る。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 側溝横断管等浚渫 ・ 住民団体への河川排水路の除草作業の委託 ・ 河川敷併用道路の草刈業務 		
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川、排水路施設を建設し管理してきたが、多くの施設が近い将来、更新(つくり直す)しなければならない時期が到来することが懸念されている。 ・ 組立水路の老朽化が進み豪雨時に破損することがある。 ・ 道路側溝、排水路の暗渠化に伴い浚渫要望箇所が増えている。また、開水路においても多量の堆積物、雑草により流下能力が低下する施設があり、特に排水路敷における雑草の繁茂については、草刈の依頼が年々増加している。 ・ 五条川堤桜の老木化により、将来的に桜並木が保存できないことが危惧されている。桜並木の存続に向けて対策が急がれる。 ・ 五条川堤の桜並木及び尾北自然歩道の管理については、定期的に維持管理業務を事業者へ発注を行ってきているが、常時管理することが困難なことから手続きが遅れたりすることもあり、適正な管理ができていない状況にある。 		
平成 28 年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土地改良事業で実施予定の用排水路長寿命化計画の中で、予算の平準化を考えた長期的な排水路修繕計画を策定し、整備順位や他事業との調整を図りながら整備を行う。 ・ 浚渫要望については、現地の状況や毎年同じ箇所とならないように計画する。また、草刈についても今後の改修計画と併せ雑草対策の方法を検討する。 ・ 五条川堤の桜並木の保存に向け、専門家の意見を取り入れながら、枯死した幹や枝の剪定を行い延命を図る。また、存続に向けた検討をプロジェクトを含め行う。 ・ 五条川堤の桜並木及び尾北自然歩道の管理について、年間を通じた委託管理ができないかを検討する。年間管理により、より細かな管理ができることと計画的な作業ができることとなり、より快適な環境を保つことができる。 ・ 区要望に対する早期回答 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4 ~6	各区側溝清掃土砂搬出
6~	側溝横断管浚渫の実施（年間通じ） 住民団体による河川敷道路の除草（年間通じ） 業者委託による河川敷道路の除草

□3年間の目標

目標							
	項目（単位）	H25実績	H26実績	H27実績	H28計画	H29目標	H30目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H29年度	
H30年度	

■事業コスト

		単位	H26 年度決算額	H27 年度当初予算額	H28 年度計画額
事業費		千円	8,370	26,346	27,758
(内特定財源)		千円	0	1,800	2,143
人工	職員	人工	0.50	0.50	1.30
	臨時職員	人工	0.00	2.00	2.40
	計	人工	0.50	2.50	3.70

■平成 28 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
ふるさとづくり基金	2,143	五条川堤桜保存事業
合計	2,143	

■平成 28 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

昭和 40 年代に土地改良にて整備された排水路の老朽化が進行。法面土砂流出による管理道路崩落や田圃水管理に支障が各所発生している。

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・河川排水路敷除草作業として、五条川、巾下川、境川、矢戸川等河川敷や水路敷の除草作業を行った。特に、地元住民団体（9団体）による除草作業が行われた。
- ・五条川堤の桜並木の管理について、年間を通じた委託管理ができないかを関係団体と協議した。
- ・排水路の浚渫工事を委託した。
- ・河川排水路の修繕工事を施工した。

■ 評価

- ・河川排水路敷除草作業により、河川環境の向上と雑草による交通障害の軽減が図られた。
- ・関係団体からの通報により、五条川堤の桜の枯枝落下等による事故防止を図ることができた。
- ・排水路の浚渫により、生活環境の維持と排水路通水断面が確保されことにより、排水機能の維持が図られた。
- ・河川排水路の修繕を行い、排水路の機能維持による危険個所の解消を図った。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	07
事業名	河川排水路整備事業		
総合計画の 体系	大分類	2	未来へ引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する
	小分類	(3)	自然と共生した地域社会づくり・良好な生活環境の確保
目的	安全で安心した生活環境を維持するため、河川排水路施設の整備を図る。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・河川排水路の改良工事の設計 ・河川排水路の改良工事の施工 		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の排水路施設は、土地改良事業により築造された施設が多く、豪雨時の流下能力が不足する水路が多くある。また、老朽化した組み立て水路においては、破損することがあり、早期の改修工事が必要となっているが、財源の確保が課題である。 ・近年の集中豪雨によって、接続する河川が改修されていないことから、流下能力が不足する場合もある。そのため、内水氾濫による浸水被害が発生する危険性が出てきているため、河川排水路の改修と合わせて調整池の整備も必要となっている。 		
平成 28 年度 の目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・土地改良施設については、土地改良事業（県営事業）で整備や改修ができるように、調査を行う。また、調査した結果により、事業の種別を選定する。 ・排水路改修にあたっては、現在の氾濫状況を検討し流下能力の確保を行う。また、下流への影響がある場合は、調整池整備を検討する。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容

□3年間の目標

目標							
	項目（単位）	H25実績	H26実績	H27実績	H28計画	H29目標	H30目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H29年度	
H30年度	

■事業コスト

		単位	H26 年度決算額	H27 年度当初予算額	H28 年度計画額
事業費		千円	2,484	3,000	0
(内特定財源)		千円	0	0	0
人工	職員	人工	0.30	0.50	0
	臨時職員	人工	0.00	0.40	0
	計	人工	0.30	0.90	0

■平成 28 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合計		

■平成 28 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
15	河川等改修工事費	0	△3,000	河川維持工事費に統合

■特記事項

排水路の改修工事をすすめ、豪雨時における越水、破損の防止をめざす。

■ 目標又は改善策に対する取組内容

・新川流域総合治水対策として、新宮地区の排水路の改修と合わせて出水時の一時貯留施設の検討を委託した。

■ 評価

・平成30年度（予定）に雨水貯留施設の整備を行い、周辺住民の被害軽減を図ることができた。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	08
事業名	調整池維持管理事業		
総合計画の 体系	大分類	2	未来へ引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する
	小分類	(3)	自然と共生した地域社会づくり・良好な生活環境の確保
目的	安全で安心した生活環境を維持するため、調整池の長寿命化を図る。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・調整池の修繕工事の設計 ・調整池の修繕工事の施工 ・調整池の維持管理 		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・余野1号調整池ポンプが排水完了前に停止する状況が続いたため、平成25年度にはポンプ分電盤修繕を行い、余野2号調整池のポンプについても取替修繕を行った。この他、施設の老朽化に伴い修繕が増えてくると思われ、点検により不具合の早期解消をしていかなければならない。 ・県施設である奈良子川調整池と昭和川調整池については、一宮建設事務所から維持管理委託を受託している。※昭和については、2年ごとに江南市と交替となっている。 ・替地調整池整備に伴い、既存の小屋と資源ごみ集積場を移設している。都市整備課所管の調整池整備後の公園整備工事までの間、これら施設の維持管理を要する。 		
平成28年度 の目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・定期点検結果に基づき適正に維持管理を行う。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4 ~3	奈良子川調節池の維持管理 （県より受託し、住民団体委託） 替地調整池整備に伴い移設した施設の保守管理

□3年間の目標

目標							
	項目（単位）	H25実績	H26実績	H27実績	H28計画	H29目標	H30目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H29年度	
H30年度	

■事業コスト

		単位	H26 年度決算額	H27 年度当初予算額	H28 年度計画額
事業費		千円	2,446	3,177	3,247
(内特定財源)		千円	1,660	860	860
人工	職員	人工	0.20	0.20	0.20
	臨時職員	人工	0.00	0.00	0.00
	計	人工	0.20	0.20	0.20

■平成 28 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
奈良子川調節池管理委託金	860	
合計	860	

■平成 28 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

維持管理費の増加を抑制し、施設を長持ちさせるため、予防保全(計画的にメンテナンスを行うこと)をめざす。

水位計の設置したことにより調整池の適正な管理と治水の安全性を確保する。

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・調整池（余野1号、2号、奈良子調整池）については、住民活動団体への除草作業を委託した。
- ・余野2号調整池フェンス（有刺鉄線）修繕工事を行った。
- ・余野2号調整池羽根車の修繕他を行った。
- ・余野神社前調整池のポンプ脱着装置の取替を行った。

■ 評価

- ・定期点検の実施による故障箇所の修繕及び調整池の除草作業等により、適正な管理が図られた。